

1 劇症肝炎で高頻度に見られるのはどれか。2つ選べ。

- a 徐脈
- b 低体温
- c 肝腫大
- d 意識障害
- e 全身倦怠感

2 メタボリック症候群を定義する因子でないのはどれか。

- a 腹囲
- b 血圧
- c 中性脂肪
- d 空腹時血糖
- e LDLコレステロール

3 誤嚥性肺炎について正しいのはどれか。

- a 左下葉が好発部位である。
- b 高齢者よりも若年者に多い。
- c 基礎疾患として脳血管障害が多い。
- d マイコプラズマ感染によることが多い。
- e 経口摂取をしなければ誤嚥性肺炎は発症しない。

4 血球とサイトカインの組合せで誤っているのはどれか。

- a 赤血球——— エリスロポエチン<EPO>
- b 血小板——— トロンボポエチン<TPO>
- c 好中球——— 顆粒球コロニー刺激因子<G-CSF>
- d 好酸球——— インターロイキン5<IL-5>
- e Tリンパ球——— インターフェロン α <IFN- α

5 全肺気量は最大吸気量に何を加えたものか。

- a 肺活量
- b 残気量
- c 一回換気量
- d 予備呼気量
- e 機能的残気量

6 高カルシウム血症クリーゼでみられないのはどれか。

- a 口渇
- b 乏尿
- c 悪心
- d 倦怠感
- e 意識障害

7 脾臓摘出後に感染しやすいのはどれか。

- a 結核菌
- b 緑膿菌
- c 肺炎球菌
- d カンジダ
- e インフルエンザウイルス

8 血栓溶解療法の禁忌はどれか。

- a 脳梗塞
- b 肺塞栓症
- c 大動脈解離
- d 急性心筋梗塞
- e 深部静脈血栓症

9 胎便について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 無臭である。
- b 黄色である。
- c 大腸菌が含まれている。
- d 胎児の肺にとって有害である。
- e 生後3日を過ぎてから排泄される。

10 妊娠による母体変化で正しいのはどれか。

- a 子宮体部組織の軟化は子宮頸部の軟化より遅れる。
- b 妊娠前と比べ腔内の酸性は弱くなる。
- c 新しい妊娠線は白色を呈する。
- d 妊娠中でも乳汁分泌はみられる。
- e 骨盤諸関節の靱帯は妊娠末期には拘縮する。

11 限られた医療資源を効率的に活用する方策はどれか。3つ選べ。

- a 専門医の養成
- b 多職種間の連携
- c かかりつけ医への受診誘導
- d 医療機関完結型医療機関づくり
- e 個々の病態に応じた医療資源の提供

12 正しいのはどれか。3つ選べ。

- a リハビリテーションは疾病の治療を目指す。
- b DALYは障害を考慮した生存期間の指標である。
- c 疾病の治療は活動・参加を促進する必要条件である。
- d ソーシャルサポートによりQOLの向上が期待される。
- e 健康とは、単に疾病または虚弱でないということではない。

13 股関節後方脱臼の整復操作を順に示す。

誤っているのはどれか。

- a 助手に骨盤を固定させる。
- b 脱臼側の膝関節を持ち上げる。
- c 牽引しながら股関節を90度屈曲する。
- d 大腿の長軸方向へ股関節を強く押し込む。
- e 内・外旋すると整復とともに整復される。

14 Bell麻痺について正しいのはどれか。

- a 顔面神経核の障害である。
- b ノロウイルスが関与する。
- c 緩徐に症状が進行する。
- d 上肢に症状が強い。
- e 額の麻痺を認める。

15 心臓病患者における開腹手術時の術中モニターとしてSwan-Ganzカテーテルを用いた場合、心機能を過大評価する恐れのあるのはどれか。

- a 僧帽弁狭窄症
- b 収縮性心膜炎
- c 拡張型心筋症
- d 心房中隔欠損症
- e 陳旧性心筋梗塞

16 放射線障害の中で確率的影響として生じるのはどれか。2つ選べ。

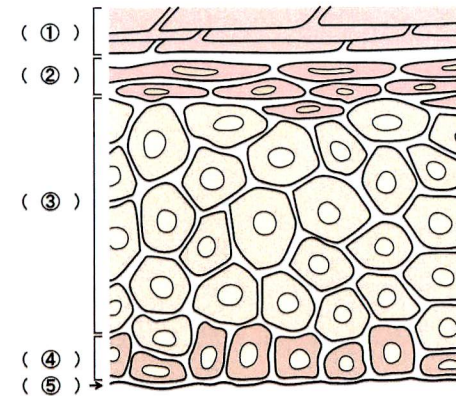
- a 不妊
- b 白血病
- c 奇形誘発
- d 肺線維症
- e 遺伝的影響

17 軽度の意識障害で認められることが少ないのはどれか。

- a 傾眠
- b 幻視
- c 脱抑制
- d 体感幻覚
- e 易刺激性

18 表皮の模式図を示す。正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ①の層にはメラノサイトが多く存在する。
- b ②の層にはBirbeck顆粒を有する細胞が存在する。
- c ③の層にはデスモソームが細胞間に存在する。
- d ④の層にはLanghans型巨細胞が存在する。
- e ⑤の領域にはヘミデスモソームが存在する。



表皮の模式図

19 母子感染で難聴を生じるのはどれか。

- a サイトメガロウイルス
- b 水痘ウイルス
- c パルボウイルス
- d 麻疹ウイルス
- e 単純ヘルペスウイルス

20 17歳の男子。視力不良を主訴に来院した。右前眼部写真を示す。

適切な治療はどれか。

- a 角膜移植
- b 抗菌薬点眼
- c 眼球摘出術
- d ステロイド点眼
- e ハードコンタクトレンズ使用



右前眼部写真

21 腹膜後器官でないのはどれか。

- a 尿管
- b 盲腸
- c 下大静脈
- d 十二指腸
- e 腹大動脈

22 正しいのはどれか。

- a 安静吸息時、横隔膜は弛緩している。
- b 終末気管支が分岐して葉気管支となる。
- c 呼吸中枢、吸息中枢は視床下部に存在する。
- d 末梢化学受容器は脳脊髄液のpHの低下を感受する。
- e 体温の上昇はヘモグロビン酸素解離曲線を右方偏移させる。

23 染色体異常が原因なのはどれか。2つ選べ。

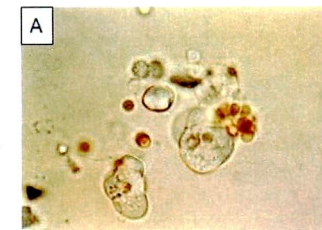
- a フェニルケトン尿症
- b 男性ホルモン不応症
- c Klinefelter症候群
- d Marfan症候群
- e 猫鳴き症候群

24 32歳の女性。下痢と粘血便を主訴に来院した。来院5日前から左下腹部痛と粘血便を認めた。1

か月前インドに旅行した。新鮮便の顕微鏡写真（A）と大腸内視鏡写真（B）を示す。

この疾患に合併することがあるのはどれか。

- a 肝膿瘍
- b 進行麻痺
- c 皮膚爬行症
- d レフレル症候群
- e 好酸球性髄膜炎



顕微鏡写真



大腸内視鏡写真

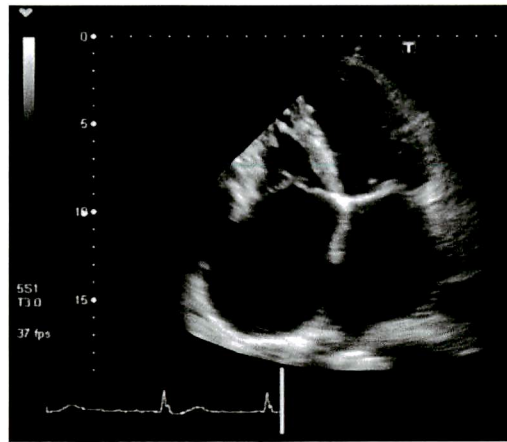
25 自然退縮が期待できる腫瘍はどれか。

- a 乳児神経芽腫
- b 小児甲状腺乳頭癌
- c 妊婦子宮頸癌
- d 若年成人ホジキンリンパ腫
- e 高齢者GIST

26 心エコー図（心尖部四腔像）を示す。

観察できない心臓構造物は何か。

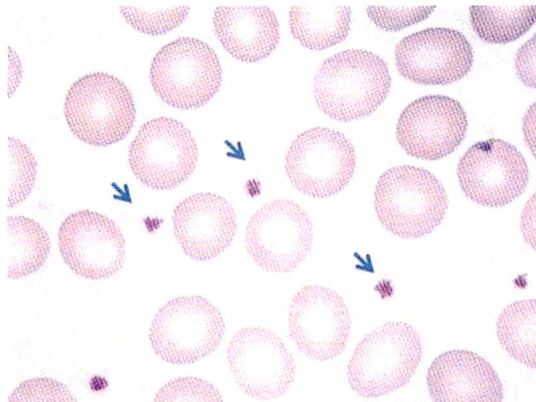
- a 心室中隔
- b 大動脈弁
- c 三尖弁
- d 右 室
- e 左 房



心エコー図

27 末梢血で図の矢印で示す血球が増加するのはどれか。2つ選べ。

- a 摘脾後
- b 肝硬変
- c サラセミア
- d 鉄欠乏性貧血
- e 播種性血管内凝固＜DIC＞



図

28 原始反射の誘発法はどれか。2つ選べ。

- a 瞳孔に光を当てる。
- b 腹壁を左右方向にこする。
- c 仰臥位で頭部を持ち上げ、床方向に落とす。
- d 口唇の周囲を検者の指で触れる。
- e 膝蓋腱を打腿槌で叩く。

29 胎児の発育で正常と考えられる組合せはどれか。

- a 妊娠8週 ————— 胎嚢 2 cm
- b 妊娠10週 ————— 頭殿長 1 cm
- c 妊娠20週 ————— 胎児大腿骨長 3 cm
- d 妊娠32週 ————— 推定胎児体重 1,000g
- e 妊娠37週 ————— 児頭大横径 6 cm

30 国連ミレニアム開発目標について正しいのはどれか。

- a がん対策
- b 生活習慣病の対策
- c 妊産婦の健康の改善
- d 高齢者死亡率の引き下げ
- e 上水道普及による感染症蔓延防止

31 都道府県知事の権限による入院形態はどれか。2つ選べ。

- a 任意入院
- b 応急入院
- c 措置入院
- d 医療保護入院
- e 緊急措置入院

32 嗄声の聴覚印象に該当しないのはどれか。

- a 粗糙性
- b 氣息性
- c 無力性
- d 努力性
- e 心因性

33 新生児女児の身体所見として生理的でないのはどれか。

- a 産 瘤
- b 性器出血
- c 呼吸数 70 / 分
- d 心拍数 120 / 分
- e Babinski 反射陽性

34 最も上位の性ホルモンはどれか。

- a LH
- b FSH
- c TRH
- d GnRH
- e キスペプチン（メタスチン）

35 我が国の保健統計について正しいのはどれか。

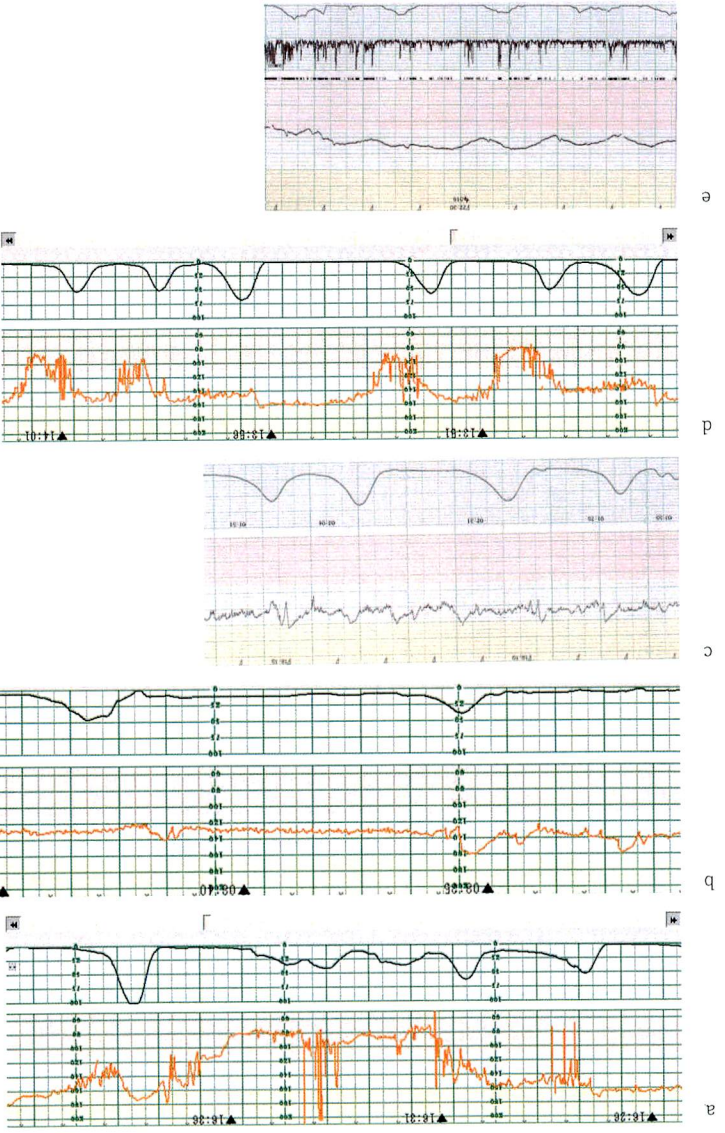
- a 国勢調査では家計収入も調査する。
- b 患者調査は全ての医療機関を対象とする。
- c 国民生活基礎調査では学歴について調査する。
- d 身体障害者実態調査は10年に1度実施される。
- e 人口動態統計は都道府県の情報が総務省統計局に集められる。

36 ある疾患の検査前確率が20%であり、その後の検査結果の陽性尤度比が4の時、検査後確率はどれか。

- a 10%
- b 45%
- c 50%
- d 55%
- e 60%

37 分娩時の胎児心拍数陣痛図を示す。

胎児が健全であることを示唆するのはどれか。2つ選べ。



38 産業医について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 職場巡視を行う。
- b 衛生教育を行う。
- c 労働災害の認定を行う。
- d 作業環境の維持管理を行う。
- e 労働基準監督署長が任命を行う。

39 感染症法で3類に分類されているのはどれか。

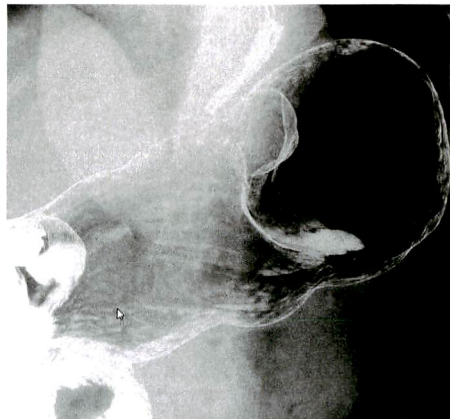
- a ポリオ
- b 結核
- c A型肝炎
- d 細菌性赤痢
- e ジフテリア

40 誤っている組合せはどれか。

- a 二酸化炭素———地球温暖化
- b ホルムアルデヒド———浮遊粒子物質汚染
- c 二酸化硫黄———酸性雨
- d 特定フロン———オゾン層破壊
- e 塩化飽和脂肪酸炭化水素———紫外線増加

41 70歳の男性。検診の上部消化管造影検査で異常を指摘され来院した。上部消化管造影写真を示す。診断に最も有用な内視鏡検査法はどれか。

- a 拡大内視鏡検査
- b 超音波内視鏡検査
- c カプセル内視鏡検査
- d 内視鏡的逆行性胆管造影検査
- e 内視鏡的逆行性膵管造影検査



上部消化管造影写真

42 44歳の男性。胸部絞扼感を主訴に来院した。

現病歴：2か月前より、午前5時頃に胸部絞扼感により覚醒するようになった。以前は、2週間に一度の頻度で生じ、2～3分で消失していたが、1週間より連日、出現するようになり症状が消失するまでの時間が5～10分くらいに延びてきた。労作時に同様の症状は生じたことはない。

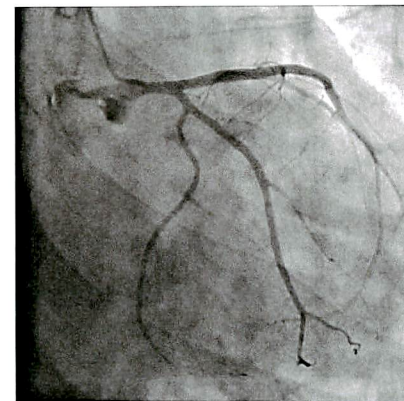
既往歴：特記すべきことなし

生活歴：会社員。喫煙は30本/日を44年間。飲酒なし。

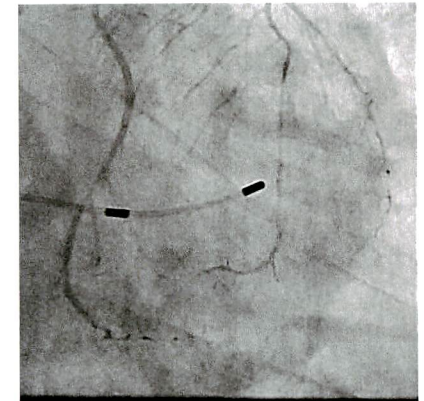
現症：身長167 cm、体重64 kg、腹囲78 cm。体温36.3℃。呼吸数15/分。脈拍60/分、整。血圧120/90 mmHg。頸静脈怒張なし。甲状腺腫大なし。胸部聴診異常なし。肝腫大なし。下腿浮腫なし。

検査所見：血液所見：赤血球406万、Hb 13.7 g/dl、Ht 41%、白血球8,700、血小板26万。血液生化学所見：血糖108 mg/dl、HbA1c 5.5%（基準4.3～5.8）、総蛋白6.4 g/dl、アルブミン3.6 g/dl、尿素窒素19 mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl、LDLコレステロール160 mg/dl（基準65～139）、HDLコレステロール38 mg/dl、トリグリセリド130 mg/dl、AST 24 IU/l、ALT 28 IU/l、LDH 346 IU/l（基準176～353）、ALP 325 IU/l（基準115～359）、 γ -GTP 40 IU/l（基準8～50）、CK 86 IU/l（基準30～140）、心筋トロポニンT 0.03 ng/ml（基準0.1以下）、CRP 0.1 mg/dl。Na 136 mEq/l、K 4.1 mEq/l、Cl 101 mEq/l。

入院後心臓カテーテル検査を施行した。その結果を（①：コントロール、②：アセチルコリン負荷後）示す。



心臓カテーテル検査①



心臓カテーテル検査②

適切な治療はどれか。2つ選べ。

- a 冠動脈ステント留置術
- b アドレナリン
- c Ca拮抗薬
- d スタチン
- e β 遮断薬

43 77歳の女性。高血圧の診断で近医にて降圧薬とループ利尿薬を処方されている。2日前から水様性下痢が出現し持続しているが、降圧薬と利尿薬は継続して内服していたという。全身の脱力感と尿量の減少を主訴に救急外来へ来院した。体温37.8℃。呼吸数24/分。脈拍98/分、整。血圧96/53 mmHg。血液所見：赤血球426万、Hb 14.2 g/dl、Ht 42%。白血球10,100、血小板35万。血液生化学所見：総蛋白7.3 g/dl、アルブミン4.3 g/dl、尿素窒素30 mg/dl、クレアチニン1.4 mg/dl、AST 37 IU/l、ALT 33 IU/l、Na 140 mEq/l、K 3.6 mEq/l、Cl 111 mEq/l。

この時点で使用する輸液製剤として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 生理食塩液
- b 注射用蒸留水
- c 乳酸リンゲル液
- d 5%ブドウ糖液
- e 高カロリー輸液製剤

44 生後7日目の男児。在胎40週、出生体重3,612 gで出生した。Apgar Scoreは1分8点、5分10点であった。母乳栄養で哺乳は1日8回。排便は1日に3~4回、黄色泥状便を認めた。母親が、哺乳力は良好だが溢乳が多いことを主訴に来院した。

この児に通常は認められないのはどれか。

- a Moro反射
- b 体温37.5度
- c 心拍120/分
- d 呼吸数40/分
- e 追視

45 28歳の初産婦。妊娠39週で陣痛発来後10時間が経過した。未破水で子宮口は8 cm開大、展退100%、下降度はSp+1、大泉門を2時の位置に触知する。

子宮収縮は発作60秒、間欠は2分、胎児心拍数図所見で変動一過性徐脈がみられるが基線細変動は保たれている。

対応として適切なのはどれか。

- a 陣痛促進
- b 人工破膜
- c 鉗子分娩
- d 経過観察
- e 帝王切開

46 20歳の男性。右前腕に裂創を負って来院した。創は約7 cmの裂創で、砂と泥で汚染されていた。組織欠損は無く、神経や腱などの重要構造物の損傷も見られなかった。尚、患者が来院したのは受傷後24時間以上を経過してからであった。

この創について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 再生により治癒する。
- b 感染のリスクが高いため三次治癒が望ましい。
- c 組織欠損が無いので一次治癒させるべきである。
- d 組織欠損が無いので二次治癒させるべきである。
- e 創傷治癒過程としては出血・凝固期を過ぎて炎症期に入っている。

47 46歳の男性。統合失調症のため通院中。この数日体調不良を訴えていた。朝、起きてこないとめ、家族が部屋を見に行くと意識がないため救急搬送された。来院時所見：意識JCS 200、体温36.0℃、脈拍64/分、血圧120/66 mmHg。除皮質硬直を認め、瞳孔4 mm、左右同大、対光反射迅速、両側病的反射を認めた。血液検査所見では血糖118 mg/dl、血清浸透圧204 mEq/lであった。

最も考えられる疾患はどれか。

- a 水中毒
- b 低血糖
- c 甲状腺中毒症
- d ウイルス性脳炎
- e 脳底動脈塞栓症

48 56歳の男性。2日前からの腰痛、発熱、全身倦怠感があり、本日意識が低下したため救急車で病院まで搬送された。来院時の意識状態はGCS、E2V3M6で、呼吸回数は30回/分、脈拍数125回/分、血圧は70/25 mmHgであった。橈屈脈拍は触知不良であった。体温は38.7℃であった。血液検査では、ヘモグロビン濃度15.0 g/dl、白血球13,000/ μ l、好中球分画は95%、CRPは20 mg/dlであった。尿は肉眼的に混濁しており、尿沈渣では白血球、赤血球とも陽性であった。心電図は洞性頻脈で、胸部聴診上、心雑音は聴取されなかった。胸部エックス線写真では、CTRは40%、肺血管陰影は正常で、左右の肺野の透過性低下は無かった。心エコー検査では、左室拡張終期径は45 mm、左室駆出率75%、僧帽弁、大動脈弁逆流は無く、下大静脈径は8~10 mmで呼吸性変動があった。既往症として、反復する尿路結石症に対する治療歴があった。

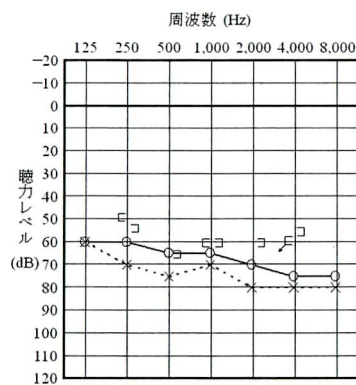
正しいのはどれか。2つ選べ。

- a SIRSである。
- b 敗血症性ショックである。
- c 出血性ショックである。
- d 心原性ショックである。
- e ARDSである。

49 7歳の女児。学校の健康診断で両側難聴を指摘され来院した。日常生活には支障がなく、質問に対する受け答えはしっかりしている。来院時の純音聴力検査所見を示す。

次に行う検査として適切なものはどれか。

- a テインパノメトリー
- b 頭部MRI
- c 聴性脳幹反応 (ABR)
- d 語音聴力検査
- e 言語発達検査



純音聴力検査所見

50 28歳の初産婦。妊娠34週3日、近くの診療所で子宮内胎児発育遅延の診断をうけて紹介された。来院時、ノンストレステストではnonreactive patternであった。超音波検査で30分間観察したところ児は男児で、推定体重は1,200 g、羊水ポケットは最大1.5 cm、胎児呼吸様運動は最長10秒間持続した。体幹と肢体の運動が2回、手掌の開閉動作は2回みられた。

対応として適切なものはどれか。

- a 2週間後に再度妊婦健診をする。
- b 塩酸リトドリンを処方する。
- c 母体の血圧測定をする。
- d 帝王切開の準備をする。
- e 羊水検査をする。

次の文を読み、51~53の問いに答えよ。

65歳の男性。かかりつけ医で肝機能障害を指摘され来院した。

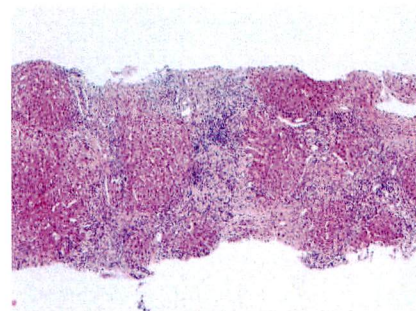
現病歴：食欲は良好、比較的元気で、時に軽度の倦怠感を自覚する程度である。

既往歴：25年前に十二指腸潰瘍のため吐血し輸血を受けている。30歳代から1日に2~3合の飲酒を続けている。これまで意識障害をきたしたことはない。

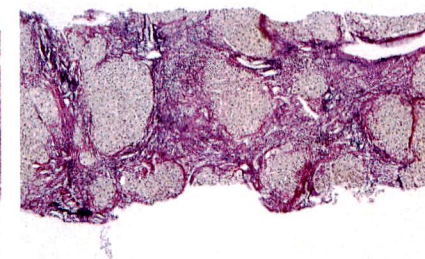
現 症：身長165 cm、体重62 kg。体温36.4℃。呼吸数16/分。脈拍85/分、整。血圧120/74 mmHg。胸部に心雑音なく、ラ音を聴取しない。腹部は平坦で腸雑音は正常。肝を心窩部に2 cm触知する。下肢に軽度の浮腫を認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)。血液所見：赤血球429万、Hb 11.8 g/dl、Ht 40%、白血球4,200、血小板8万、プロトロンビン時間64% (基準80~120)。血液生化学所見：総蛋白6.8 g/dl、アルブミン3.0 g/dl、 γ -グロブリン24.7%、尿素窒素18 mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl、総コレステロール166 mg/dl、トリグリセリド80 mg/dl、総ビリルビン3.3 mg/dl、AST 100 IU/l、ALT 82 IU/l、 γ -GTP 96 IU/l (基準8~50)、Na 141 mEq/l、K 4.5 mEq/l。免疫学所見：HBs抗原陰性、HCV抗体陽性。

肝生検組織のHE染色標本とエラスチカ・ワンギーソン染色標本を示す。



HE 染色標本



エラスチカ・ワンギーソン染色標本

51 この患者に認められないのはどれか。

- a 脾 腫
- b 手掌紅斑
- c 女性化乳房
- d 羽ばたき振戦
- e クモ状血管腫

52 適切な食事指導はどれか。

- a 脂肪制限食
- b 塩分制限食
- c 蛋白制限食
- d 水分制限食
- e 糖質制限食

53 ICG試験（15分停滞率）の結果に影響を及ぼすのはどれか。

- a 総蛋白
- b γ -GTP
- c ヘモグロビン
- d 総ビリルビン
- e クレアチニン

次の文を読み、54～56の問いに答えよ。

42歳の女性。約6年前に気管支喘息と診断されて治療を受けている。本日歯科で治療を受けた。帰宅後歯科処置を受けた部位の疼痛が強く、鎮痛薬を内服した。約20分後に鼻閉感を感じ、その後急速に呼吸困難が出現し進行、短時間作用型吸入 β_2 刺激薬を吸入したが改善が得られず受診した。受診時歩行不能で起坐呼吸。会話はかろうじて可能。体温36.8℃。呼吸数24回/分。脈拍112/分、整。血圧164/98 mmHg。経皮的酸素飽和度〈SpO₂〉86%（室内気）。全肺野でwheezesを聴取。心音純。皮疹は認めない。

54 合併している可能性が高い疾患はどれか。

- a 肥 満
- b 歯周病
- c 胃食道逆流症
- d 慢性副鼻腔炎
- e 睡眠時無呼吸症候群

55 すぐに行う治療はどれか。2つ選べ。

- a 酸素投与
- b 非侵襲的人工換気
- c エピネフリン皮下注射
- d 副腎皮質ステロイド薬吸入
- e ロイコトリエン受容体拮抗薬経口投与

56 発作予防のために患者に行う指導として適切なのはどれか。

- a 体重を減らすようにする。
- b 歯科治療は受けないようにする。
- c 非ステロイド性解熱鎮痛薬の使用に注意する。
- d 短時間作用型吸入 β_2 刺激薬を使用しないようにする。
- e 今回服用した鎮痛薬にアレルギー反応があるか確認することをすすめる。

次の文を読み、57～59の問いに答えよ。

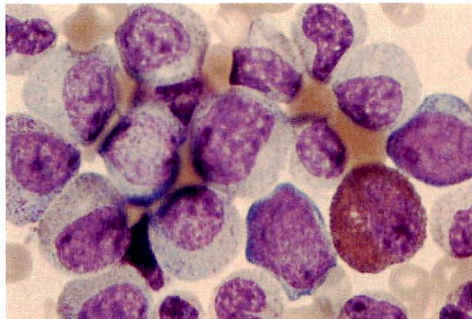
36歳の男性。全身倦怠感、労作時息切れを主訴に近医を受診、白血球573,200を指摘され、精査を勧められて来院した。身長165 cm、体重60 kg。呼吸22/分。脈拍78/分、整。血圧138/78。眼瞼結膜に貧血を認める。皮膚と粘膜に異常はなく、項部硬直もない。胸部に異常所見なし。腹部で左肋骨弓下に脾臓を15 cm触知する。血液所見：赤血球238万、Hb 8.1 g/dl、Ht 23.5%、白血球623,200（芽球7.8%、前骨髄球4.0%、骨髄球30.8%、後骨髄球14.8%、桿状核球15.8%、分葉核球12.6%、好酸球6.0%、好塩基球5.6%、リンパ球1.2%、単球1.4%）、血小板68.2万。骨髄塗抹標本(May-Giemsa染色)を図に示す。

57 この患者の採血後、採血管を放置していたら、血液が3つの層（赤い層、白っぽい層、そして黄色い液体の層）に大きく分かれているのに気がついた。下から順に何色になったか。

- a 赤———白———黄色
- b 白———黄色———赤
- c 黄色———赤———白
- d 赤———黄色———白
- e 白———赤———黄色

58 診断に有用な特殊染色はどれか。

- a 鉄染色
- b PAS染色
- c ペルオキシダーゼ染色
- d 非特異的エステラーゼ染色
- e アルカリホスファターゼ染色



骨髄塗抹標本 (May-Giemsa 染色)

59 予想される染色体転座は何か。

- a t (8;21)
- b t (8;14)
- c t (9;22)
- d t (15;17)
- e t (14;18)

次の文を読み、60～62の問いに答えよ。

46歳の男性。会社の健康診断で異常を初めて指摘され来院した。

現病歴：2年前に転職し接待や外食が多く、食事時間が不規則となり、体重が約13 kg増えている。

仕事のストレスで間食をすることもあるが、全身状態は良好である。

既往歴：特記すべきことはない。

生活歴：飲酒はビール1,400 ml/日を8年間。喫煙歴はない。

家族歴：父が糖尿病、脳梗塞で治療中。

現 症：身長174 cm、体重88 kg。体温36.4℃。脈拍72回/分、整。血圧146/88 mmHg。心音と呼吸音ともに異常を認めない。肝・脾を触知しない。下肢に浮腫を認めない。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血1+、沈渣に赤血球5～10/1視野。血液所見：赤血球428万、Hb 14.6 g/dl、Ht 46%、白血球7,200、血小板20万。血液生化学所見：空腹時血糖値116 mg/dl、HbA1c (JDS) 5.6%、総蛋白7.0 g/dl、アルブミン4.2 g/dl、尿素窒素14 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、尿酸9.8 mg/dl、総コレステロール244 mg/dl、トリグリセライド168 mg/dl、総ビリルビン0.9 mg/dl、AST 33 IU/l、ALT 42 IU/l、LDH 278 IU/l (基準176～353)、ALP 132 IU/l (基準260以下)、 γ -GTP 88 IU/l (基準8～50)、アミラーゼ144 IU/l (基準37～160)、Na 142 mEq/l、K 4.2 mEq/l、Cl 100 mEq/l、Ca 9.4 mg/dl、P 3.4 mg/dl。

60 正しいのはどれか。

- a 血清の外観は乳びである。
- b 蓄尿での尿沈渣の再検が必要である。
- c 過去1、2か月の血糖値が不良である。
- d 血清Ca値はアルブミン補正が必要である。
- e 腹囲は立位、軽呼吸時、臍レベルで測定する。

61 この患者で予想されるのはどれか。2つ選べ。

- a 痛風結節の形成
- b 内臓脂肪の増加
- c 腎の結節性病変
- d 腰椎の魚椎変形
- e 血清インスリン高値

62 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 肥満症と診断できる。
- b 経口血糖降下薬を処方する。
- c 塩分制限の指導は不要である。
- d ビールを減らすように指導する。
- e 1か月で10 kgの減量を目標にする。